

平成 24 年 1 月 30 日
3 課 千富 成田毅久

明治ステップセシウム混入ミルクについて

当初の報道では明治の粉ミルク「明治ステップ」からセシウムが検出され、明治側は迅速に約 40 万缶を対象に無償交換する方針を打ち出した。となっているが、調べてみると 2011 年 11 月中旬（報道された日の 2 週間前）にすでにセシウム混入の情報が寄せられており、明治側は隠蔽ではないにせよ、自社検査を実施していなかったことが判明した。企業体制に問題があったのか不明だが、その 2 週間で不必要な被曝をうけた人も少なからずいたであろう。消費者の健康被害を第一に考えているならば、その間にメーカーは何を考えていたのか疑問が残る結果となった。自ら製造した製品が消費者に被害を与えている、ましてや原発事故後の放射性物質混入という重大な問題を非常に軽視したかのような対応は国民の怒りをかっただけに違いない。メーカーは生命に対する問題意識が欠落していると言えよう。そういう意味で今回の件は人災と言わざるを得ない。

粉ミルクの消費者は乳幼児に限られる。蓄積されたセシウムが健康被害を及ぼすのは 10 年後 20 年後になると言えよう。そのときになってメーカー、政府はどのような補償をしてくれるのだろうか。

当社の販売製品はお取替え対象製品以外のものであったが、返品、交換などの迅速な対応を行った。また、メーカーの言うことを鵜呑みにせず、当社独自で検査機関へ製品を持ち込み、セシウム混入が無いことを証明し、その結果を公表し消費者を安心させた。当社の販売製品に万が一セシウム混入の製品があったとしたら、考えただけでも背筋が凍る思いである。薬局は消費者の健康を守る最後の砦であることを肝に銘じなければならない。

以上